

アイヌ口承文芸テキスト集 1 1

白沢ナベ口述 キネズミに妹をさらわれた男

採録・訳・註 中川裕

今回紹介するアイヌ口承文芸のテキストは、千歳市蘭越の故白沢ナベ氏による散文説話 (uepeker) である。白沢氏の御自宅で 1988 年 6 月 18 日に中川が採録したもので、姉アサ氏から聞いた話だという。1999 年度の千葉大学普通教育未修外国語授業のひとつである「アイヌ語 3」で、テキストとして用いた。整理番号 N8806182UP。

あらすじ

<女の自叙>

私は兄に大事に育てられ、何不自由ない暮らしをしていた。そこへある日色の黒い小男がやってきて、私の家に住み着いた。男は私の仕事をなにくれとなく手伝ってくれていたが、ある時、兄が山に行っている間に私に求婚し、その熱心さにととう承諾して夫婦になった。それからしばらくしてまた兄が山に行ったきり、なかなか帰って来なかった時に、男が「自分には家も、村も、故郷もある。それがどうなっているか見てきたいから、一緒に行こう」という。必ず戻ってくるからという男の言葉を信じて一緒にでかけると、男は山の中をどンドン分け入り、近くの狩場を通り越し、遠くの狩場まで行ってさらに山奥に進む。くたくたになり、身を投げ出して休みたく思いながらもついていくと、山からきれいな沢が流れ落ちている、その沢口のところまで来た。すると、男はそこに仮小屋を作り、これからはそこで暮らすと言いだした。びっくりしたが、もうどうすることもできず、男とそこで暮らすうちに、まっ黒い小さな子どもたちを大勢生み落とした。

<女の兄の自叙>

私は妹を可愛がって、何不自由ない暮らしをしていた。私は狩の名手で、立派なシカやクマをたくさん捕って来たし、妹も大きくなって畑仕事をするようになると、その畑から採れたものを入れるのに、二つの倉三つの倉を立てなければならぬくらいたくさん収穫を上げて、何を食べたいとも欲しいとも思わない暮らしをしていた。ある時、色の黒い小柄な男がやってきて、家に住み着き、妹の手伝いをするようになった。

それからしばらくして、山に狩に行ってみると、妹の姿も弟の姿も見当たらない。どこに行ったのか、死んでしまったのか生きているのか見当もつかない。しばらくひとりで暮らしていたが、そうやっても妹の行方はわからないので、探しにでかけることにした。近くの狩場を越え、遠くの狩場を過ぎて山奥に行くと、きれいな沢が流れており、その沢をたどって行くと、山から沢が流れ落ちていて、そこから先は険しくなっていて行けないようなところに行きついた。見ると立派な仮小屋が

あり、その前で大勢のまっ黒で小さな子どもたちが、追いかけてっこをして遊んでいる。驚いてその子供たちを眺めていると、川へ水を汲みに降りて行く妹の姿が見えた。この子供たちは妹の子供に違いない。そう思った私は、家の前に行くと、子供たちはあわてふためいて家の中に駆け込んでしまった。訪ないの咳払いをすると、中から妹が出てきて、私の姿を見ると涙を流して家の中に引っ込んだ。後について入ると、子供たちが囲炉裏の周りに座っている。妹は泣きながら次のように語った。

「あの黒い男が私に求婚し、熱意に負けて夫婦になると、兄さんが山に行っている時に、自分の家や村がどうなっている見てきたいから一緒に行こうと言いました。必ず戻るというのでついて来たら、この山奥で暮らすことになってしまったのです。よくよく考えてみると、その男は実はキネズミが人間に化けたもので、自分はそのキネズミの術にかけられて、言うことをきいてしまっていたのだということがわかりましたが、こんなふう子供たちがたくさん生れてしまっは、もう兄さんと一緒に帰ることはできません。キネズミの子供なので真っ黒で小さいといっても、私が生んだ子供たちですから、置いて去るわけにはいきません。私はこのまま悪いカムイになってしまうことになりすから、兄さんは私のことをあきらめて帰ってください。そうしたら、美しい女の人がどこからかやってきて、兄さんと一緒になり、何不自由ない暮らしができるようになりますから」

妹はそんなことを言った。話を聞くだけでも、その子供たちをみんな殴り殺したい気持ちに駆られたが、妹が自分の子供だから別れるわけにはいかないというので、どうにもしようがなく、私は家に帰ることにした。家にはたどりついたが、そのまま何年もの間、心が晴れず何もしないで横になっている生活が続いた。しかし、こんなことをして死んでも甲斐がないと思いなおして、食事もきちんをとるようにし、狩にもでかけた。昔と同様、狩に行っても、魚捕りに行っても、立派な獲物を捕って帰ってくる。

そうやってひとりで暮らしていたが、ある日、家の外に誰か来た音がする。出てみると、どこで生まれ育ったのか、噂に聞こえてきてもおかしくないような、とても美しい娘が立っていた。家に招き入れると、娘は私のためにかいがいしく食事の支度をしたり、薪をとったりして走り回る。料理をよそる時も、食器を持つところがないくらい山盛りにしてよそってくれる。そうしてしばらく暮らしているうちに、夫婦となった。女は大変な働き者で、畑仕事も一生懸命やり、私たちは何不自由ない暮らしをしていた。

そのうちに私そっくりの男の子が生まれた。私は妹のことが心に引っかかかっていて、夫婦となってもその女とあまり口をきくこともしないでいたのだが、子供が生まれるとその子をふたりで可愛がり、お互いに抱っこするのに取り合いをしたりして暮らした。そのうち女の子も生まれ、何不自由なく暮らしていたが、それゆえなおさら妹のことが思い出されて、男ながら涙にくれていた。やがて子供たちも大きくなり、娘たちには妻が女の仕事を教え、息子たちには私が男の仕事を教えた。そうやって暮らしているうちに、妹のこともだんだん記憶から薄れていった。

息子たちは昔の私同様、狩が上手で、立派な獲物をどんどん捕ってくる。私も妻もだいぶ年になって来たが、息子たち娘たちが働き者なので、何をする必要もなく、何不自由ない暮らしを送っているうちに、私も妻も年老いた。そこで、若い頃こんなつらい思いをしたので、語り残しておくのだと、立派な長者が語って、この世を去った。

解説

この話に登場するのは **tusuninke** 「エゾリス」である。北海道方言でキネズミと呼ぶ。**tusuninke** の語源については、知里真志保が『分類アイヌ語辞典』の中で「<**tusu** (巫術) **ninke** (消す), ‘巫術を使って姿を消すもの’の義か」と述べており、一般にそのように理解されてきたと思うが、いささか疑問がある。**nin** 「減る、消える」という自動詞があり、**ninke** は **nin** に **-ke** が接合して出来た他動詞という解釈だと思われるが、一般にこのように自動詞に **-ke** がついて形成される他動詞は **sanke** 「出す」、**ranke** 「下す」、**yanke** 「陸に上げる」のような移動動詞に限られ、**nin** と同様の状態変化を表す動詞と **-ke** の組み合わせは、**maka** 「開ける」—**makke** 「開く」、**rutu** 「押しずらす」—**rutke** 「ずる」のように、**-ke** が自動詞を形成する接辞であるのが一般的だからである。

沙流方言などでは、ホタルを **ninninkeppo** のように呼び、「消え消えるもの」と解釈しているが、**ninninke** が **ninke** の重複形だと考えるのならば、この場合は **ninke** を自動詞「消える」だと考えていることになる。**ninke** が自動詞だとするならば、**tusu-ninke** は意味的に「巫術が・消える」という解釈にならざるを得ない。また、語形成上も名詞＋自動詞という形になって、動詞を主要部とする複合名詞の制約である、語全体の要求する名詞句の項数が1（自動詞相当）という条件を満たさない形になってしまう。この点を解消するには、**tusu-e-ninke** 「巫術・で・消える」の **e** が省略されたものとして見るしかないが、このような語形は確認されていない。

一方、**ninke** が他動詞「消す」であった場合、**tusu-ninke** という語構成の語に対する通常の解釈は「巫術・を消す」となるが、これをエゾリスの語源と考えるのは困難である。そのように考えると、この語はこのような名詞＋他動詞という語構成においては稀なタイプに属する「巫術が・～を消す」という構造の複合名詞だということになる。ただしその場合も、**ninninkeppo** の **ninke** との関係については、やはり疑問が残る。以上のようなことで、この **tusuninke** という名称の語源解は確立しているとは言い難い。

北海道にはこのエゾリスとシマリス (**ruop**) の2種類のリスがおり、どちらもあまりよいものとは思われていなかったようだが、特にエゾリスは嫌われていたようで、『コタン生物記』には次のようにある。

「エゾリスは狩人に木の上から小便をかけたり、木から降りて来て『タツク タツク』と身体をゆすって人間をからかったり、『クククク』と木をかけあがって行って人を小馬鹿にする。それで釧路

地方ではウエンペ（悪い者）といって嫌い、朝これに出会うと縁起が悪いといって、猟に出かけるのを中止した。とくに手を合せて拝むような真似をされることを最も嫌ったという。またエゾリスを獲ったときは、山猟では碌でも無い者以外にはやらない、ハンノキの木幣をやったという。

釧路や十勝地方では普通ニオウとかニヨウ（木渡り）といっているが、中央部（近文、空知、名寄）や西南部ではト°ス・ニンケ（巫術で消える）といってやはり嫌い、家に来るのは悪の神の使いで狩りの邪魔をするといい憎み（空知）、やはり猟の途中で見ると家に帰って来た（千歳）という」（p.321）

本稿では、このエゾリスが人間に化けて家にやってくるわけだが、猟運に影響は与えないものの、やはりその家に禍をもたらす、魔物としての役回りである。

テキストの表記法について

アイヌ語テキストの表記中、=（イコール）は、その前あるいはその後にあるものが人称接辞であることを示す。_（アンダーライン）を付したものは、その前の音素が交替して別の音素になっていることを示す。例えば、an w_a → an ma。an h_i のような例では、h が脱落して、ani のように発音されることを示す。… とあるのは、単なるポーズや言いよどみを表すのではなく、その後で明らかに別の語句に言い直したと思われる場合に付す。なお、こうした言いさし・言いよどみは、それを示しておかないと、どこまでを言い直しているのか判断がつかなくなるような場合にのみ示してある。<wa>のように< >でくくって示したものは、次の語句を考えるときなどに直前の語の最終音節等を繰り返していることを示す。

参考文献略号

『沙流方言辞典』：田村すず子（1996）『アイヌ語沙流方言辞典』草風館

『音声資料2』：早稲田大学語学教育研究所編（1985）『アイヌ語音声資料2』

『久保寺辞典稿』：久保寺逸彦編（1992）『アイヌ語・日本語辞典稿』北海道教育委員会

『コタン生物記』：更科源蔵・更科光（1976）『コタン生物記』法政大学出版局

また、(N8808312FN) のようにあるのは、筆者の資料整理番号。N は白沢ナベ氏、880831 は 1988 年 8 月 31 日に記録したものであること、2 はその日の 2 番目のファイル（音声テープ）であること、最後の FN はフィールドノートの意味で、音声テープの質問・会話の部分を起こしたデータであることを表している。この部分が UP である場合は uepeker のテキストであることを表す。

テキスト

a=yupihi an w_a
i=pirkareska i=tomtereska¹
ney wa arki kusu oka utar ne wa
oka=an ruwe ne ya ka
a=eramuskari korka,
a=yupihi i=tomteresu i=pirkaresu.
ekimne kor,
yuk cikoykip kamuy cikoykip eawnarura.
pet or un arpa kor
cep ne yakka pirka cep patek koyki wa
ek wa i=ereska wa oka=an pe ne awa,
sineanpeta <ta> sineanpeta って²
asinuma konto poro=an w_a toyta=an kor,
tu pu a=epuni re pu a=epuni wa
a=yupihi kor wa ek
kam ne yakka cep ne yakka
turano a=e p ne kusu,
nep a=e rusuy nep a=kor_rusuy ka
somo ki no oka=an pe ne akusu
sineanpeta ekurok kusu an³ okkaypo
hunak wa ek hine <ne>
turano oka=an hike,
nep a=kar yakka
kosne kosne wa i=ekasuy kusu
cihoyupure wa i=ekasuy.

兄がいて、
私を大切に大事に育ててくれた。
どこからやってきて暮らしている者たちで
私たちがあるのか
わからなかったが、
兄は私を大事に育て、立派に育ててくれた。
(兄は) 山に行くと
シカやクマを捕ってきた。
川に行くと
魚でも、よい魚ばかりを捕って
来て、それで私を養ってくれていたが
ある日…って
私は大きくなって畑仕事をする、
ふたつの倉、みっつの倉を立てて
兄が捕ってきた
肉やら魚やら
と一緒に食べたので、
何を食いたいとも何を欲しいとも
思わずに暮らしていましたが
ある日のこと、まっ黒けな若者が
どこからかやってきて、
私たちと一緒に暮らすようになりましたが、
何をするときでも、
気軽に私を手伝ってくれ、
走り回って手伝ってくれる。

¹ この前に「a=yupihi an wa oka=an pe ne hike (兄がいて、暮らしていたが)、これは聞いていないものね。このごろ初めにあのひとがたに … 」と言っており、あらためて語りなおしている。

² sineanpeta って: 「ある日」と言って、黒い男のやってきた話の導入をしようとしたところで、妹自身のことを語っていないことに気がついた。

³ ekurok kusu an : このような kusu an の用法は、「～なので (そのように) ある」という意味なのかもしれないが、あるいは「～の状態である」というアスペクトを表す用法なのかもしれない。

toyta=an y_akka i=kasuy i=kasuy kane
 nep a=kar y_akka i=ekasuy wa ki kor
 oka=an pe ne akusu,
 a=yupihi ekimne kusu
 arpa wa isam w_a kusu
 orowa okake ta <ta> あの
 "mat ne a=e=kor_rusuy ruwe ne."
 sekor kane hawean.
 ne ekurok pon okkaypo ki wa
 tu makkesama a=kotuye
 re makkesama a=kotuye⁴ kor
 oka=an pe ne a korka
 eytasa kaspā
 ohonno turano oka=an pe ne kusu
 konto <to> mat ne i=kar hine i=kor hine
 turano oka=an ruwe ene an h_i ne a p,
 sineanta ne a=yupihi ekimne kusu
 arpa hine oar isam.
 ohonno san siri ka isam w_a <ma>
 okake ta oka=an akusu
 ene hawean h_i ene an h_i.
 "kotan ka kor pe mosir ka kor pe
 cise ka kor pe a=ne kusu,
 a=uni un paye=an w_a
 a=unihi a=nonkar ka ki rusuy.
 a=kotanuhu ka an pe ne kusu
 a=nonkar wa orowa
 suy arki=an kusu ne kusu i=tura i=tura."
 sekor hawean kor arkinne i=siren wa
 ohonno turano an=an ka ki.

畑仕事をするのでも手伝ってくれ、
 何をするのでも手伝ってくれて、
 そうやって暮らしていると、
 (ある日) 兄が山へ狩をしに
 行ってしまったので、
 その後で、
 「お前を妻に欲しいんだ」
 などと言ってきた。
 そのまっ黒なちびの若者がそう言うので、
 二度も断り
 三度も断って
 いたのだが、
 もうずいぶん
 長いこと一緒に暮らしていたので、
 (とうとう) 妻となって夫婦として
 一緒に暮らすことになった。
 ある日のこと (また) 兄は狩に
 行ってしまった。
 長いこと、山から下りてくる様子もなく
 留守を守っている
 (男が) こう言った。
 「(私には) 村も故郷もある。
 私には家もあるので、
 私の家に一緒に行って
 家がどうなっているか確かめたい。
 私には村もあるので、
 様子を見に行って、
 また戻ってくるから、一緒に行こう、行こう」
 と言って、一生懸命私を誘うので、
 長いこと一緒に暮らしているのだし、

⁴ tu makkesama a=kotuy re makkesama a=kotuye : 「a=kotuye っていうことは、いや駄目
 だっていうことさ。おくさんになりたくない。嫌だ、嫌だってばかり突っ張っていた話なんだ」
 (N8808312FN)

macihi ne ka an=an したもの ne kusu
 a=tura hine <ne> paye=an akusu
 orowano ney ta an pe kotan ne wa
 oro oarpa hawe ne ya ka a=eramuskari.
 arpa a arpa a orano <no>
 kese a=anpa だか⁵
 os arpa=an a arpa=an a ayne
 sanke iwor a=kama wa
 tuyma iwor or a=opaye hine
 paye=an akusu, pirka pon nay
 san ru konna <na> koramamatki.
 pirka pon nay an hine,
 nay par or_ ta paye=an akusu
 orowano kaskot kar hine <ne>
 pirka pon kaskot kar hine orowano
 "tane wano anakne
 te ta oka=an kuni p ne ruwe ne."
 sekor hawean.
 wen iyokunure toy iyokunure a=ki.
 "hosippa=an kusu ne.
 a=yupihi sinen ne an w_a <ma>
 inunukaski ne kusu hosippa=an kusu ne."
 sekor hawean w_a kusu <su>
 a=tura wa ek=an pe ne awa
 orowano oro ta oka=an akusu
 konto mat a=ne kusu <su>
 pon hekattar pon pon hekattar
 patek a=kor wa,
 kunne pon hekattar patek a=kor wa
 tumu a=oma wa oka=an ruwe ene an h_ine

妻ともなったわけだから、
 一緒に出かけることにすると
 どこに村があるのやら、
 どこに向かうという話なのやらわからない。
 (男が) どんどん行くのを
 追いかけて
 後をついて歩きとおし、
 近くの狩り場を越えて、
 遠くの狩り場まで行って
 そこまで行くと、きれいな小沢が
 すーっと流れ下っている。
 美しい小沢があり
 その沢の沢口に行くと、
 (男は) 仮小屋を作って
 きれいな小さな仮小屋を作って
 「これからは
 ここで暮らすことにしよう」
 と言う。
 私はとてもびっくりした。
 「(ちゃんと) 帰るから。
 兄さんひとりでは
 気の毒なので家に戻るから」
 と (男が) 言うから
 一緒に来たものなのに、
 そこで暮らすことになってしまったが
 私は妻になったので
 小さな子どもたち、小さな小さな子どもたち
 ばかりを生んで
 黒い小さな子どもたちばかりを生んで、
 それに囲まれて暮らして

⁵ 「だか」という日本語の挿入は、たいていの場合、不適當な表現をしてしまっただけで言い直す時に行われる。

| | |
|---|------------------|
| sekor_ ne kor | というところで、 |
| konto あにき isoytak hawe ene an h_i. | 今度は兄貴が物語を語る。 |
| <ここで叙述者が兄に交替する> | |
| a=kor_ turesi an w_a | 私には妹がいて |
| a=pirkaresu a=tomteresu. | 大切に、大事に育てていた。 |
| ekimne=an w_a <ma> | 山へ狩に行つて、 |
| kamuy cikoykip yuk cikoykip | クマやシカを捕つてきては |
| paro a=oyki. | それを食べさせた。 |
| cepkyoki=an w_a pirka cep ne yakka | 魚捕りに行つて、よい魚も |
| poronno a=ronnu p ne kusu | たくさん捕つてくるので |
| cise or_ ta ka a=satke soy ta ka a=satke wa | 家の中でも干し、外でも干して、 |
| poronno kam ka cep ka | 肉も魚もたくさん |
| poronno a=satke wa | たくさん干して |
| nep a=e rusuy nep a=kor_ rusuy ka | 何を食べたいとも、何を欲しいとも |
| somo ki no oka=an ruwe ne a p, | 思わずに暮らしていたが、 |
| a=macirpehe ⁶ ponno poro akusu | 妹は少し大きくなると、 |
| orowano toyta wa | 畑仕事をして、 |
| toyorunpe nuwekoan w_a oka=an wa | 畑の作物をたくさん収穫して |
| toyorunpe ne yakka a=koe p ne kusu <su> | 野菜も一緒に食べたので、 |
| nep a=e rusuy ka somo ki no | 何を食べたいとも思わずに |
| oka=an ruwe ne a p, | 暮らしていたのだが、 |
| sineanpeta ekimne or wa san=an akusu | あるとき、山から戻つてくると、 |
| sine kunne okkaypo ek wa an | ひとりの黒い若者が来ていた。 |
| ruwe ne hine, orowano | そして、 |
| a=macirpehe nep kar y_akka kasuy. | 妹が何をするのも手伝つた。 |
| kosne kosne wa kasuy wa <wa> | 身軽に手伝つて |
| oka=an ruwe ene an h_i ne korka, | 暮らしていたのだが、 |
| somo ka ene ne kunak a=ramu kor | まさかそんなことになるうとは、 |
| sineanpeta kim ta arpa=an akusu | ある日山に行くと、 |

⁶ a=macirpehe : macirpe は千歳方言において、男性から見た妹を指す言葉。物語の中では tures, -i という語を使うことが多く、この話でも a=kor turesi のように言っている場面もあるが、ここからは一貫して macirpe で通している。女性から見た妹は他方言と同じく matak, -i。

| | |
|---|----------------------|
| orowa, kim ta arpa= an hine ⁷ | 山に行つて |
| poro kamuy aske a= uk hine | 大きなクマを捕つて、 |
| a= se wa san= an akusu opitta oar isam. | 背負つて降りてくると、誰もいない。 |
| ene paye wa isam hi ka a= erampewtek wa | (ふたりが) どこへ行つたのかもわからず |
| orowano sinen ne | それからはひとりで |
| yaykoyantone= an w_a <ma> | ひとり暮らしをして |
| toyta anak = an ka somo ki ⁸ korka | 畑仕事などはしなかったが |
| cepkyoki= an y_akka | 魚を捕つても |
| a= epetetne ⁹ p ne kusu <su>, | 向こうから寄ってくるほどなので、 |
| cep ka poronno a= ronnu | 魚もたくさん捕つた。 |
| yuk ka kamuy ka | シカもクマも |
| pirka kamuy rupne kamuy patek | 立派なクマ、大きなクマばかり |
| a= ronnu wa a= rura wa | 捕つて運んで来て |
| a= e kor an= an ruwe ne korka | 食べて暮らしていたが、 |
| ray wa isam ruwe ne ya, | 死んでしまったのやら |
| ney ta ka siknu wa oka ruwe ne ya ka | どこかで生きているのやら |
| a= eramus kari wa kusu, | わからないので |
| orowa sineanpata | ある年 |
| inehempak pa an= an hine oro wa <wa>, | 何年かたつた |
| sineanpata omanan ... | ある年、歩き回つた… |
| a= hunara kusu kim ta arpa= an . | 探しに山にでかけた。 |
| sanke iwor iwor so ka ta a= hunarpa korka, | 近くの狩場も探したが |
| ruwehe poka a= nukar ka somo ki wa kusu | 足跡すら見つけることができなかつたので |
| orowa iwor a= kama hine | その狩場を越えて |
| kimun iwor iwor or_ ta omanan= an ayne, | 山奥の狩場を歩き回っているうち |

⁷ kim ta arpa=**an** hine : 口調から、前行を言い直していることがわかる。

⁸ toyta anak =**an** ka somo ki : この **an** は toyta 「畑仕事」を主語とする自動詞「ある」だという解釈もあり得るが、話の流れから考えれば、前後の yaykoyantone=**an** や cepkyoki=**an** と同じく、叙述者を表す人称接辞=**an** だと解釈したほうが自然である。すなわち、toyta=**an** の toyta が anak によってトピックとして切り出された結果、=**an** だけが残されたという解釈である。このような動詞から切り離された=**an** の用法は、註 16、17 などにも現われており、存在動詞 **an** と自動詞 4 人称主格接辞=**an** の機能的な近似性ととも、起源的な関連性を示す例となっている。

⁹ a=**epetetne** : 「a=**epetetne** っていうのは、魚でもこうとってくれつていって寄ってくるみたいな案配で、よくとれることという話だ」(N8808291FN)

<ne> inehunak ta arpa=an kor
 pirka sanke nay an ruwe ne hine
 pirka pon nay nay turasi arpa=an ayne,
 <ne> tane ne nay nupuri koas nay ne wa
 akkari anakne tuymano anakne <ne>
 iwor yupke wa hemesu ka a=eaykap no
 siran usi ta arpa=an akusu
 ponno arpa=an tek kor pirka ...
 pirka kuca an hine,
 kuca soy ta pon hekattar
 sonno pon hekattar utar uminare¹⁰ kor
 ukesanpa wa mina hawe wen ruy kor
 uhoyuppare kor okay wa,
 wen iyokunure toy iyokunure a=ki kusu
 tukarike ta <ta> as=an w_a
 orowano inkar=an w_a an=an akusu, <su>
 a=macirpehe ne a p,
 wakkata kusu pet or_ ta ran siri
 a=nukar yakun,
 poho utar ne wa uminare kor
 uhoyuppare kor oka ruwe ne kuni
 a=ramu wa kusu,
 orowa cise soy ta arpa=an akusu
 nea hekattar opitta arukimatekka wa
 cise or un arukirare hine
 ahup w_a oar isam w_a kusu,
 simusiska=an akusu
 a=macirpehe soyne hine i=nukar h_ine
 orowa, cis a cis a kor ahun wa kusu

どこやらに出ると
 きれいな流れの沢があった。
 きれいな小沢に沿って行くと
 その沢は山から流れ落ちている沢で、
 そこを越えて遠くへは
 山が険しくて登ることができない
 ようなところに行きついた。
 ほんの少し行くと立派な…
 立派な仮小屋があり、
 仮小屋の前で小さな子どもたちが
 本当に小さな子どもたちが笑いあいながら
 追いかっこしてきゃあきゃあ言いながら
 走り回っている。
 とても驚いたので
 その前に立って
 見ていると
 私の妹であった者が
 水を汲みに川に下りて行くのが
 見えた。ということは、
 妹の子供たちが笑いあいながら
 走り回っているのだと
 思ったので、
 家の前まで行くと
 その子供たちはあわてふためいて
 家の中に逃げ込んで
 ひとり残らず入ってしまったので、
 咳払いをすると、
 妹が出てきて私を見て
 さめざめと泣きながら引っ込んだので、

¹⁰ uminare : u-「互いを」 mina「笑う」-re「させる」で、「お互いに笑わせあう」と意味もあり得るだろうが、このような u·X·re という構造の場合は「一緒にXする」と解釈するほうが適切な場合が多い。

os ahun=an.

"ene e=ekte wa e=ek y_a?"¹¹

sekor yaynu=an kusu

a=hunara kusu ek=an pe ne kusu

os ahun=an akusu ...

os ahun=an akusu <su>

nerok hekattar utar opitta

ape okari urokipare wa oka ruwe

ene an h_i ne hine, <ne>

a=macirpehe cis a cis a kor

ene itak h_i ene an h_i.

"aynu he ne newaanpe

omanan ruwe ne kunak a=ramu wa <wa>,

i=kasuy kusu cihopunire cihoyupure wa

i=kasuy ka ki kor an pe ne awa,

orowa mat ne i=kor_rusuy ruwe ne

sekor hawean wa

tu makkesama a=kotuye

re makkesama a=kotuye kor

oka=an ruwe ne a korka <ka>,

eytasa kaspā

inehempak pa itura=an w_a

orowaun arkinne ye p

a=nu ka somo ki ka eaykap w_a kusu <su>,

mat ne an=an kuni a=eese ruwe ne hine

mat ne an=an ruwe ne awa,

a=yupihī ekimne kusu arpa okake ta

ene hawean h_i.

'a=e=kor_rusuy wa kusu

kamuy or_ ta a=yaykotomka p

私も後から入った。

「(妹が) このようにお前を来させたのでは」

と思ったので

(妹を) 探すためにやって来たのだから、

後から入って行くと

後から入って行くと、

例の子供たちはみんな

炉の周りに座って

いる。

妹は泣き続けながら

こう言った。

「あの者は普通の人間であって

旅をしていたのだと思っていて

私を手伝って、飛び回り、走り回って

私のお手伝いをしてくれていたのですが、

私を妻に欲しい

と仰いだして、

二度断り

三度断って

いたのですが、

あまりにも

何年もの間一緒に暮らし

一生懸命言っているものを、

聞き入れないわけにもいかないのです、

妻になることを承知して

夫婦になったのですが、

兄さんが山に狩に行った後で

(男は) こう言いました。

『お前と夫婦になりたいくて

カムイの世界に私にふさわしい者を

¹¹ ene e=ekte wa e=ek y_a? : やや解釈に自信が無いが、「このように (妹が) お前をここに来させて、(それで) お前が来たのではないか?」つまり「ここにたどり着いたのは妹がお前を導いたからではないか?」ということだと考える。

| | |
|--|-----------------------|
| a=hunara hike ka sinep ka isam w_a kusu | 探したけれど、ひとりもいないので、 |
| inkar=an awa e=siretok h_i pirka ruwe | 見てみると、お前の美しい姿 |
| kewtum pirka ruwe a=koonrupus wa kusu, | 美しい心に、惚れてしまったので、 |
| a=e=kor_ rusuy kusu ek=an w_a | お前を妻にしたいくてやってきて |
| orowano a=e=kasuy wa | お前の手伝いをして |
| nepki=an kor an=an ruwe ne na. <na> | 働いていたのだから、 |
| a=macihi ne an w_a i=kore' | 妻になっておくれ』 |
| sekor kane hawean. | と言います。 |
| orano inehempak pa | 何年もの間、 |
| tu makkesama a=kotuye | 二度も断り |
| re makkesama a=kotuye kor an=an | 三度も断ってきた |
| ruwe ne a korka <ka>, | のですが、 |
| 'eytasa kaspā cihoyupure wa | 『あんなにも走り回って |
| i=kasuy siri an pe arkinne ye p | 私を手伝ってくれた者が熱心に言うのを |
| a=hayta ka eaykap' | 知らぬふりをすることもできない』 |
| sekor yaynu=an kusu | と思ったので、 |
| macihi ne an=an ruwe ene an h_i ne a p, | 妻となったのですが、 |
| a=yupihī ekimne wa isam w_a kusu <su> | 兄さんが山に行ってしまったので、 |
| 'kotan ka kor pe mosir ka kor pe | 『村を持ち、故郷を持つ者で |
| a=ne ruwe ne kusu | 私はあるので、 |
| a=kotanu a=nonkar_ rusuy. | 自分の村の様子を見てきたい。 |
| a=unihi a=nonkar_ rusuy ruwe ne na. | 家の様子を見てきたいから、 |
| i=tura' sekor hawean. | 一緒に行こう』と言います。 |
| 'kotannonkar=an cisenonkar=an yakun | 『村の様子を見て、家の様子を見たら、 |
| orowa hosipi=an. | 戻ってくる。 |
| hosippa=an kuni p ne ruwe ne na' | 一緒に戻ってくるから』 |
| sekor hawean kor | と言って、 |
| arkinne a=i=siren w_a orowa a=tura hine | 熱心に誘うので、一緒に |
| ek=an ruwe ne korka <ka> ... ek=an. | やって来たのですが…来ました。 |
| ear ekimne ¹² patek arpa a arpa a | ひたすら山の奥の方にはばかり、進んで進んで |

¹² ear ekimne : ear は「一つだけ(の)、一回だけ(の)」『沙流方言辞典』のように解されることが多いが、ここでは一回という回数を問題にしているのではなく、「ただひたすら」のような意味で用い

| | |
|--|------------------------|
| arpa a arpa a orano os an w_a | 上って上って、その後を |
| apkas=an a apkas=an a | 歩いて歩いて |
| tane apkas=an ayne a=esinki ka ki wa, | あんまり歩き続けて疲れたので |
| yayosura=an w_a yayhesere yaysinire=an | 身を投げ出して、息をついで休もうと |
| sekor yaynu=an h_ike ka <ka> | 思いましたが、 |
| os ek=an ayne | 後をついて歩き続けたあげく |
| tan kim ta ek ruwe ene an h_i ne hine | この山の中にやってきたのです。 |
| orowa, toma kas ¹³ kar hine | すると（男は）木の枝で仮小屋を作り、 |
| cise kar hine | 家を作って |
| orowa ene hawean h_i ene an h_i | こう言いました。 |
| 'tan te ta oka=an kusu arki=an ruwe ne.' | 『ここに暮らすためにやって来たんだ』 |
| sekor hawean kor <kor> | と言うと、 |
| toma kas kar hine oro ta oka=an. | 仮小屋を作ってそこに暮らすことになりました。 |
| cise ... cise kar wa | 家を作って |
| oro ta oka=an ruwe ene an h_i ne akusu, | そこで暮らしているうちに |
| orowano ene okay hekattar a=kor wa | ここにいる子供たちが生まれて |
| kes pa an kor poronno hekattar a=kor wa | 毎年大勢の子どもたちが生まれて |
| hekattar_ tum ne an pe a=ne wa | 子供たちに囲まれて暮らすように |
| an=an ruwe ne wa | なったのです。 |
| pirka pirka <ka> yaykowepeker=an ¹⁴ w_a | よくよく考えて |
| inu=an akusu <su>, | みると、 |
| tusuninke aynu kat ne yaykar h_ine <ne>, | キネズミが人間の姿に化けて |
| i=kokursura ¹⁵ ruwe ne anan. | 私に術をかけて惑わせていたのでした。 |

られている。

¹³ toma kas : toma というのは一般に「^{むしろ}筵」「ゴザ」を指すので、白沢氏に「toma kas っていうのは、ゴザで作った小屋みたいなもんかな？」と聞いたところ、「違う違う。いろいろ木の枝でも、青木の枝とって柱建てて、そのくくり囲って、屋根にもしるものいうんだ。toma kas っていうの。山さ行ってちゃかつとした、屋根はむらんように作るでしょうけど、長くいるから、その人がたは長くいるから、屋根もむらんように作った話らしいよ」(N8808312FN) ということである。ここではその説明に従って訳した。

¹⁴ yaykowepeker=an : yay- 「自分」 ko- 「に」 uepeker 「物語を語る」で、「困って色々考える」という意味になるが、その際に koue- のように母音にはさまれた u は子音化して w になる。

¹⁵ i=kokursura : 「i=kokursura っていうと、なんていうか、悪いくもをかけてしまったっていうような話だ。まよわせてしまった」(N8806183FN)、「i=kokursura っていうのは、そういうものに悪魔かけられたっていう言葉になる。それが kursura」(N8808312FN)

poronno pokor ka =an¹⁶
 kim ta tuymano kim ta ek=an w_a
 poronno pokor ka =an w_a,
 orowa inkar=an ka ki
 inu ka =an ka ki¹⁷ wa ki akusu <su>,
 tusuninke i=kokursura katu ne anan
 katu a=nukar_ ruwe ne,
 a=nu ruwe ne korka <ka>,
 a=yupihhi a=tura wa hosipi=an rusuy wa,
 ene a=ye hi ka isam ruwe ne korka,
 tane anakne ekurok hekattar po ka a=kor,
 poronno ki ruwe ne kor
 a=yupihhi a=tura wa
 hosipi ka eaykap pe a=ne ruwe ne yakun,
 asinuma ka tusuninke ne an=an
 etokus ruwe ene an h_ine kusu,
 a=yupihhi neun yaynu yakka
 yayramtomoytak wa
 hosipi wa ne yakne <ne>,
 pirka katkemat ney wa ka
 yayomananka¹⁸ wa
 a=yupihhi turano an w_a ne yakne,
 poronno katkemat toyta ka ki.
 arikiki katkemat ek wa kor wa ne yakne,
 poronno usa toyta aep ne yakka
 ekimne aep ne yakka poronno kor
 etokus ruwe ne kusu <su> ... wa

大勢の子どもを産んで
 遠く山奥まで来て
 大勢の子どもを産んで
 そして、見たり
 聞いたりしていると、
 キネズミが私に術をかけていたのです。
 そういふことであるのが見てわかり、
 聞いてわかりましたが、
 兄さんと一緒に戻りたくて
 どうしようもありませんけれど、
 もうまっ黒な子供たちを生んで
 大勢の子どもを産んでしまつては、
 兄さんと一緒に
 戻ることできません。そして、
 私もキネズミになつて
 しまうことになるのですから
 兄さんがどうお思いにならうと
 あきらめて
 帰つてもらえれば、
 美しい女の人がどこからか
 やつてきて
 兄さんと一緒に暮らすでしょう。そうしたら
 奥さんが畑仕事もたくさんするでしょう。
 働き者の女性が来て一緒になつたなら
 畑の作物もたくさん
 山の食べ物もたくさん手に入る
 ことになるでしょう。

¹⁶ pokor ka =an : pokor=an ka ki あるいは pokor ka a=ki となるようなところで、このように動詞と人称接辞を副助詞 ka で分断してしまうような例が、白沢氏にはよく見られる。

¹⁷ inkar=an ka ki inu ka =an ka ki : 山で暮らすようになってから、男の様子を見たり話を聞いたりしているうちに、事態が呑み込めた。inu ka =an の=an は上記の pokor ka =an と同じ用法。

¹⁸ yayomananka : 「yayomananka っていうのは、呼びもしない、寄せもしないもの、ひとりで舞い込んで来たっていうところわけだ」(N8808312FN)

hekattar ka poronno
 pirka hekattar kor etokus ruwe ne.
 menoko po ka okkayo po ka
 ki etokus ruwe ne na.
 yayramtomoytak wa hosipi wa i=kore.
 asinuma anakne tane anakne
 ar wen kamuy ne a=i=kar wa
 ar wen kamuy ne an=an
 etokus ruwe ene an h_i ne kusu,
 a=yupihhi yayramtomoytak wa
 hosipi yak pirka ruwe ne na <na>.
 neun ekurok hekattar_ ne yakka
 a=kor_ ruwe ne yakun
 a=osura wa hosipi ka eaykap pe
 a=ne ruwe ne <ne> kusu,
 a=yupihhi hosipi yak pirka na.
 yayramtomoytak wa hosipi yak pirka na"
 sekor kane a=macirpehe hawean.
 inu ne wa ki p ne korka¹⁹
 eunka²⁰ ne hekattar a=ukokikkik
 a=ukoronnu anki yaynu=an a korka <ka>
 a=macirpehe cis kor,
 "neun ekurok pe ne yakka
 a=po ne a=kor pe ekohopi
 hosipi ka eaykap²¹ ruwe ne kusu
 turano wen kamuy ne an=an
 etokus ruwe ne na."
 sekor a=macirpe hawean hawe ne.

子供たちもたくさん
 立派な子供たちが大勢生まれるでしょう。
 女の子も男の子も
 生まれるでしょうから、
 あきらめて帰ってください。
 私はもはや
 悪いカムイにされて
 悪いカムイになって
 しまうことになっているのですから、
 兄さんはあきらめて
 戻ってくださいませ。
 こんなまっ黒な子供たちとはいえ
 私が生んだのですから
 捨てて帰るわけにはいかない
 ものですので、
 兄さんは帰ってください。
 あきらめて戻ってください」
 などと、妹が言う。
 ただ聞いたばかりのことであるが、
 できることならこの子供たちを殴って
 みんな殺してしまおうと思ったのだが、
 妹が泣きながら
 「どんなにまっ黒だといっても
 私の子として生んだものと別れて
 帰ることはできませんから
 とともに悪いカムイとなる
 ことにします」
 と、妹が言うのを、

¹⁹ 「Inu newa chikip ne korka 私はただ聞いたばかりだけれど」『神謡集』pp.76-77

²⁰ eunka : 「eunka tap ほんとに出来るなら…したい 面倒くさい…してしまはうかな」『久保寺辞典稿』p.72

²¹ hosipi ka eaykap : hosipi=an ka eaykap あるいは hosipi ka a=eaykap という形が期待されるところだが、人称接辞が聞こえない。

akkarino neun iki ka a=eaykap kusu,
 orowa cis ... cis koraci²² hosipi=an.
 “tane anakne wen kamuy ne
 a=macirpehe an ruwe ne yakun,
 hosipi=an” sekor yaynu=an kusu
 orowano cis turano hosipi=an hine
 a=kotanu ta sirepa=an korka
 iruska ne ya nep ne ya ka
 a=eramuskari p ne kusu <su>,
 tu pa ka re pa ka
 yayosura=an hi patek ne wa
 hotke=an w_a patek an=an a korka,
 yaykowepeker=an w_a inu=an h_ike
 “nenno e=an²³ w_a e=ray yakka <ka>
 wen ruwe ne kusu <su>,
 tewano suy e=ipe ka ki
 e=ekimne ka ki e=cepkoyki ka ki
 e=yaykatante²⁴ yak
 easir aynu ne e=an w_a²⁵
 sekor yaynu=an kusu
 orowano <no> suke=an w_a ipe=an w_a
 kewotne=an hi orowano, cepkoyki ka =an.
 ekimne=an kor ramma koraci
 a=ki wa pirka p ekimne ne kusu,

それ以上どうすることもできないので、
 私は泣きながら家に戻った。
 「もはや悪いカムイに
 妹がなってしまうというのであれば
 家に戻ろう」と思ったので、
 泣きながら家路をたどり
 村にたどりついたが、
 怒りの気持ちだか何だか
 なんだかわからない気持ちでいっぱい
 二年も三年も
 呆然とばかりして
 寝てばかりいたのだが、
 考えてみると
 「こんなふうにして死んでしまっても
 いいことはない
 これからはまたちゃんと食事
 狩にも魚捕りにも行こう。
 動き出さないと
 人間に戻れないぞ」
 と思ったので
 それから料理をして食事をして
 力がついてくると、魚捕りもした。
 山に狩に行くと、いつもと変わらず
 狩が上手にできるので

²² cis koraci : koraci は kamuy ne kusu koraci an kur 「カムイであるから、そのよう
 (カムイのよう) である人」のような例を除くと、基本的に名詞類に後置する。この場合も cis に人称接
 辞がないことから、自動詞が名詞として用いられている例だと解釈される。同様の例は『音声資料 2』
 p.26 : “kamuy siri ne uweinkar koraci inkaran katu ene an hi.” 「神様さながらに、見えな
 いことを透視するみたいに、このように見通すことができました」にも見ることができ
 る。ただし、ここでは「泣くみたいにして」という解釈では不自然なので、「泣きながら」という状況を koraci
 で表現しているのだと考える。

²³ 心の中で自分に向かって e= 「お前」で語りかけるという表現法がとられている。

²⁴ e=yaykatante : 「yaykatante ってゆへば、これまでも縮まって、死んでもいいと思っていた
 やつが、そろりそろりこんど思い直して動くこと」(N8808312FN)

²⁵ yak easir aynu ne e=an w_a : 逐語訳的に訳せば、「～したら、はじめてお前は人間になるぞ」

kamuy piye hi yuk piye hi a=eawnarura.
 sinen a=ne p ne kusu
 cise or_ ta ka soy ta ka
 kam kuma tay cep kuma tay
 orasnacitke hine an=an akusu,
 sineanpata hemanta esoyne ek humi
 as wa kusu apacaka=an hine
 inkar=an akusu <su>,
 pirka ponmenoko
 ney ta kotan a=oresu kusu
 tu asurorke kokesuy sinne <ne>
 re asurorke kokesuy sinne²⁶.
 nan ne kor pe hetuku cup ne inantasare
 pirka ponmenoko cise soy ta ek hine <ne>
 sihumnuyar²⁷ humi ne anan w_a kusu,
 "ahup rusuy kusu arki utar ne ciki
 ahup y_ak pirka na"
 sekor itak=an kor ahun=an akusu
 i=os ahun hine,
 orowano konto <to> suke kus hoyupu.
 nina kus ka hoyupu. suke kusu hoyupu.
 i=koypuni kusu hoyupu.
 ita cikisma isam kane
 i=koypuni kor oka=an ayne,
 orowa inehempak pa
 otu pa re pa oka=an kor orowa <wa>,
 mat ne a=kor hine,

肥えたクマ、肥えたシカを捕って来た。
 私ひとりなので
 家の中にも、外にも
 肉の掛け竿、魚の掛け竿が林のように
 (肉や魚を)ぶら下げている。すると、
 ある年のこと、何か外にやってきた音が
 するので、戸を開けて
 見ると、
 美しい娘が
 どこの村で育ったというので
 ふたつの噂をのがれ
 みっつの噂をのがれたのか
 顔は上る太陽のように光輝いている
 美しい娘が家の外に来ていて
 音を立てていたのであったので
 「入りたくて来たものならば、
 お入りなさい」
 と言いながら家に入ると
 私の後について入ってきて
 すると、食事の支度をするために走り回る。
 薪を採りに走り回り、料理に走り回る。
 私に料理をよそるために走り回る。
 持つところも無いほど
 お盆に料理をよそってくれて暮らし
 それからどれほどたったか
 二年か、三年か暮らして
 私は彼女を妻に迎えた。

²⁶ tu asurorke kokesuy sinne re asurorke kokesuy sinne : それほど美しい女性なら噂ぐらい聞いていそうなものなのに、耳にしたことがない。それほど美女という表現。

²⁷ sihumnuyar : 「sihumnuyar っていうのは、かんじきはいて山さ歩いた人、ちかれたとかなんとかって、少し休んで行きたいと思う人は、外にわざとにかんじき置いて、足から外してこんど、こうやって叩くの」(N8808171FN)。女性は他人の家を訪れた時に、表で ehu eeee という声を出して、家人に来訪を知らせることもあるが、白沢氏はこれは sihumnuyar ではなく、simusiska であるという。

| | |
|---|---|
| nep enepo arikiki wa sirki ya ka a=eramuskari. | なんと働き者であることか わからないほど。 |
| toyta kor tu pu epuni re pu epuni nina yakka pirka cikuni patek ta wa ek wa ikiri kar wa, | 畑仕事をするのと二つの倉三つの倉を立て 薪採りをしてもよい木ばかり採ってきて 束にして積み、 |
| nep a=e rusuy ka nep a=kor_ rusuy ka somo ki no oka=an wa, | 何を食べたいとも、何を欲しいとも 思わずに暮らしていて |
| sineanpata pokor hine, a=nukar akusu, i=arke a=yasa apekor an ²⁸ hekaci kor. | ある年子供が生まれた。見ると 私の半分を割いたような男の子が生まれた。 |
| orowano oro pakno anakne ukosomasnu ²⁹ koraci oka=an pe ne a korka <ka>, i=nenno kane an hekaci kor pe ne kusu, | これまではお互い話もしないで 暮らしていたのだが、 私そっくりの男の子が生まれたので |
| orowano a=ukoomap kor a=ukoterkere kor a=ukoomap kor oka=an akusu, | それからはふたりでその子をかわいがり、 捕り合いをして 一緒にかわいがって暮らしていると |
| orowano matkaci ka kor matkaci ne yakka pirka pon matkaci utar kor pe ne kusu a=koomap kor oka=an ayne, ekimne=an kor, inne=an korka ekimne=an kor pirka kamuy patek piye kamuy patek piye yuk patek poro yuk patek a=eawnarura kor oka=an pe ne kusu, a=macihi toyta kor tu pu epuni re pu epuni wa | そのうち女の子も生まれた。 女の子もかわいい子たちが 生まれたので、一緒に可愛がって 暮らしているうち 山へ狩に行く 大家族になったが、 山へ行くと立派なクマばかり 肥えたクマ、肥えたシカばかり 大きなシカばかり捕ってきて 暮らしているので 妻も畑仕事をする 二つの倉三つの倉を立てるほど収穫して |

²⁸ i=arke a=yasa apekor an : 子供が自分にそっくりであることを表現する時の常套句。

²⁹ ukosomasnu : 「ukosomasnu っていうことは、お前そっちむいてれ、おらこっちむいてるっていうようなことみたいなことで、話し合いしないっていう話だ。夫婦であって話し合いもしないで、さみしい。やっぱり妹のこと考えて、ものゆいたくないんでないの？」(N8808312FN)。この例も註 22 の cis koraci と同様、自動詞に koraci が後続している例である。ここもまた「～した状態で」ということを koraci で表現しているのだと考えられる。

nep a=e rusuy nep a=kor_ rusuy ka
 somo ki no oka=an kor
 po a=kor_ turesi a=eyaykowepeker wa,
 okkayo ne korka cis h_i a=ki ranke kor
 oka=an a korka <ka>,
 a=kor hekattar_ rupne wa
 menoko po ka okkayo po ka
 opitta rupne wa,
 menoko ne hike menoko monrayke
 a=macihi epakasnu.
 okkayo ne hike usa ekimne usa cepkoyki
 ene an pe ne hi
 a=poho utar a=epakasnu kor
 oka=an ayne <ne>,
 a=macirpehe ka tane a=oyra a=oyra kane
 kor oka=an ruwe ene an h_i ne hike <ke>,
 asinuma anakne tane <ne> poro sukup=an
 a=macihi ne yakka poro sukup pe ne kusu
 konto a=poutari ekimne kor
 tup sumawe eawnarura
 rep sumawe eawnarura.
 cepkoyki kor ene iki=an hi neno
 pirka cep patek kor wa arki.
 ekimne kor poro yuk patek
 poro kamuy patek rura wa
 nep a=e rusuy nep a=kor_ rusuy ka
 somo ki no oka nispa a=ne wa
 oka=an ayne <ne>
 asinuma ka tane kemapase=an.
 a=macihi ne yakka
 kemapase <se> ruwe ene an h_i ne wa,
 i=par a=oyki wa

何を食べたいとも何を欲しいとも
 思わずに暮らしていると
 なおさら、妹のことを考えて
 男でありながら、涙を流して
 暮らしていたのだが、
 子供たちが大きくなり
 女の子も、男の子も
 みんな大きくなって
 女の子の方は女の仕事を
 妻が教えた。
 男の方は狩だの魚漁だの
 そういったことを
 息子たちに私が教えて
 暮らしているうちに
 妹のことも、もはや忘れ忘れて
 暮らすようになったが、
 私はもうだいぶ年になった。
 妻もけっこうな年になったので、
 息子たちが狩に行くようになり
 二頭の獲物を捕り、
 三頭の獲物を捕ってくる。
 魚捕りをすると、私がしていたように
 立派な魚ばかり捕ってくる。
 狩に行くと、大きなシカばかり
 大きなクマばかり運んで来て
 何を食べたいとも、何を欲しいとも
 思わずにいられる長者になって
 暮らしているうち、
 私ももはや年老いた。
 妻もまた
 年をとった
 私たちは（子供たちに）養われて

nep a=tekehe kere ka somo ki³⁰.
 toyorunpe ne yakka
 a=kor menoko ne hike toyta.
 okkayo ne hike ekimne wa
 nep a=e rusuy nep a=kor_rusuy ka
 somo ki no
 pirka uhekote a=ki kor oka=an ayne,
 onne nispa a=ne ruwe ne korka,
 onne hontom ta
 tapne an pe a=eyaysukupka³¹ katu
 a=oyra ka somo ki no
 onne nispa a=ne ruwe ene an h_i ne kusu
 a=eysoytak hawe ne na.
 sekor kane sino nispa hawean kor
 onne ruwe ne.

何をする必要もなくなった。
 畑の作物も
 女の子の方が育ててくれる。
 男の方は狩りに行って
 何を食べたいとも、何を欲しいとも
 思わず
 夫婦仲良く暮らしているうち
 私も年老いた長者になったが、
 年をとるまでのあいだに、
 あのようなつらい目にあつたことを
 忘れずに
 年老いた長者であるので
 こういう話をしておくのだ
 と、立派な長者が言って
 大往生した。

(なかがわ ひろし・千葉大学人文社会科学研究所)

³⁰ nep a=tekehe kere ka somo ki : 逐語訳すると「何に私たちの手が触れることもない」ということで、子供たちが何でもやってくれるので、仕事をする必要がないということを表す常套表現。

³¹ a=eyaysukupka : 「こんなびっくりしたこと、初めてだっていうことの話。腹の底から足指の先、手先までも、がっかり考えた話のことだ」(N8808312FN)。語構成からすると、e-「～で以って」yay-「自分を」sukup「成長する」ka「～させる」となる。そういう出来事を経験することで、自分は人生を送ったというようなことか。

Ainu Folklore Text-11
Nabe SHIRASAWA's *uepeker*,
“The man whose sister was abducted by a red squirrel”

NAKAGAWA Hiroshi

Summary:

These texts were told by the late Ms. Nabe Shirasawa (1905-93, born in Chitose), on June 18, 1988. It had been handed down to her, Ms. Shirasawa said, by her elder sister, Asa.

Outline of text:

(A girl narrates) I lived with my brother, where a short dark-skinned man came and started to live with us. One day after my brother went to the mountains for hunting, the short man proposed marriage to me. I kept on refusing the proposal, but finally accepted it. Again one day in my brother's absence, the man asked me to go to see his house in his homeland and come back here. He walked and walked into the deep mountains, and stopped by a beautiful stream saying that we would live there. I was astonished but I couldn't do anything so that I lived there with him and then I gave birth to many little dark-skinned children.

(The girl's brother narrates) One day I came back from hunting, I found no one in my house. I waited my sister for years but she didn't come back, then I went out in the mountains to look for her. Deep in the mountains by a stream I found a beautiful hut, which little dark-skinned kids were playing around. I entered the hut and found my sister there. She told me in tears the way things had been going. She said that the man was in fact a red squirrel and he had put a spell her so that she had followed him. She said that she wanted to go back with me but she couldn't do it since she had the squirrel children and she was fated to be a squirrel herself. Then she foretold that a beautiful girl would come and marry me and then we would have many children.

As I couldn't do anything more, I went back home alone in tears. Then I spent years lying on the bed doing nothing, but finally I woke up and took meals then I started hunting and fishing again. After several years, one day I found a beautiful girl standing in front of my house and I married her as my sister had said. My wife was a so hard worker that we had a plenty of food, but as I couldn't forget my sister I didn't feel so happy to live with my wife. After we had a boy, however, we loved him together then we had many children and lived happily. As our children grew up I taught hunting or fishing to the boys and my wife taught women's works to the girls and I began to remember my sister less and less. Our children could do their works very well and then we lived happily with support by them. Thus we got old so I tell you all the tale I had experienced.

So said a respectable man and died.